

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 伊勢工業高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元企業の人材育成を軸に、一人ひとりが望む進路の完全保障を実現する工業高校</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な生活習慣を身につけ、社会常識のある明るく素直な生徒(ひとつくり)</li> <li>○ 産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒(ものづくり)</li> <li>○ 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目指す学校像の達成に向けて、教職員が教育活動の実践や改善のために、相互に共同し切磋琢磨する関係性(同僚性)を保ちつつ、失敗を恐れずに前向きにチャレンジし続ける教職員</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 卒業後の進路希望は、就職が約8割、進学が約2割である。また、資格の取得や活発な部活動に期待している。</p> <p>&lt;保護者&gt; 保護者の多くは、子どもの地元企業への就職を希望している。</p> <p>&lt;地域&gt; 元気で素直な生徒の育成に期待をしており、特に地元企業からの期待が大きい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<b>連携する相手からの要望・期待</b>	<b>連携する相手への要望・期待</b>
		<p>&lt;家庭&gt; 日常の子どもの様子を知らせてほしい。</p> <p>&lt;中学校&gt; 学校の様子、卒業生の近況報告、入試状況を知らせてほしい。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 地域の活性化のため、地域行事や防災面で施設や生徒の協力をお願いしたい。</p>	<p>&lt;家庭&gt; 本校教育方針への理解と協力をお願いしたい。</p> <p>&lt;中学校&gt; 継続的な指導が必要な個々の生徒の情報共有をお願いしたい。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 本校の教育活動を理解し、積極的に協力して欲しい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>1) 次年度に向けた教育活動 について ICT 機器導入等、ますます情報化に向けての取り組みが求められることになる。工業高校は、旋盤技術・溶接技術や製図、電気工事等の基礎的な技術習得は必須であり、基礎の上に最新技術を積み重ねていただきたい。</p> <p>2) 地域との連携・学校運営 について 「働き方改革」の名のもと、学校や教員にできることはどんどん制限されることが予想されることから、自前主義から脱却し、学外サポーター等の協力を積極的に活用されたい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>&lt;現状&gt; 在学中に様々な資格取得を目指し、卒業後は地元企業へ就職する生徒が多いことから、生徒・保護者・地域のニーズには合致している。</p> <p>&lt;課題&gt; 企業が求める人材は、現在より一段高いところ(異世代間でも適応できるコミュニケーション能力、基礎的な学力の確実な習得、より高度な資格取得等)にあり、そのニーズに応えていく必要がある。また、生徒の安全と学びの継続を両立させるため、緊急時に速やかに対応できるよう、オンライン面談やオンライン授業等の実施に向けた準備を進める必要がある。</p>	

学校 運営等	<p>&lt;現状&gt;本校の教育活動を理解してもらうため、小学校への出前授業や地域のイベント等に積極的に参加しており、地域からは一定の評価をいただいている。地域も非常に協力的である。</p> <p>&lt;課題&gt;活発な部活動に加え、地域からの期待や要望に応えるための土日のイベント参加も多くなり、教職員も生徒たちも疲れてきている。参加するイベントの精選・工夫や日常業務の改善による総勤務時間の縮減を積極的に行い、教職員や生徒たちの過重な負担を減らしていく必要がある。</p>
-----------	--

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図る。</li> <li>・基本的な生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直な生徒を育成する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深める。</li> <li>・第1希望の進路の獲得を目指し、基礎学力向上に向けた取り組みの充実と表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組む。</li> <li>・教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努める。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科指導	<p>分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して<u>学びに向かう力の育成とともに、基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図ります。</u></p> <p>「高志」ある生徒が、卒業時に取得すべき資格等を明確にして、取得するための体制づくりに取り組み、成果を上げます。</p> <p>(1)1年生から計画的、段階的に取得技術の高度化を図り、実用に即した資格取得に重点をおいた教育実践に努めます。</p> <p>(2)実習・課題研究や製図の取組の中で、技術技能の向上並びに課題解決力や表現能力に秀でた生徒の育成を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)ものづくり大会への参加 ・ものづくり東海大会への出場</p> <p>(イ)技能検定3級程度の技能練習、補習授業等の実施</p> <p>(ウ)建築設計競技会の参加</p> <p>【成果指標】</p> <p>*資格取得【別表】参照</p> <p>(3)図書館の取組として、生徒の「生きる力」を育むため、読書案内・学習活動につながる教育支援の充実に努めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>授業やHR活動等での図書館利用の推進</p>	<p>日本大学建築設計競技 優秀賞</p> <p>九州産業大学プロジェクトコンテスト 設計部門 金賞</p> <p>日本建築協会工高生デザインコンクール 入選</p> <p>修成建築設計競技 最優秀賞</p> <p>大阪府建築士事務所協会会長賞</p> <p>愛知産業大学建築コンペティション 佳作</p> <p>日本建築士会建築甲子園 県大会 最優秀賞</p> <p>全国大会 奨励賞</p> <p>(ア)ものづくりコンテスト電気工事部門 三重県大会準優勝 東海大会 出場</p> <p>(イ)技能検定3級電子機器組立 13名受験13名合格</p> <p>図書館だよりを10回/年発行し利用啓発に努めた。</p>	

	<p>三重県学校図書館協議会および南勢地区高等学校図書館連絡協議会との連携</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>生徒1人当たり貸出冊数5冊以上 高校生ビブリアバトルへの参加</p>	<p>・生徒1人当たり貸出冊数1.8冊 (2/24現在)</p> <p>・南勢志摩地域高校生ビブリアバトル参加生徒数 バトラー2名 聴衆3名</p>	
生徒指導	<p>基本的な生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直な生徒を育成します。(ひとづくり)</p> <p>(1)挨拶の励行や時間の尊重、身だしなみや礼儀作法に気を配り、ルールを遵守するなど、生活規範を身につけた生徒を育てます。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(ア) 全教員による登下校校門指導と校内巡視(毎日)</p> <p>(イ) 駅前・町内巡視の実施</p> <p>(ウ) 5分前精神の徹底(時間を守る・遅刻しない)</p> <p>(エ) 授業に集中させるために入室許可証の発行実施</p> <p>(オ) 頭髪服装指導(通年)・身だしなみ講座(4月)の実施</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(ア) 挨拶の励行100%</p> <p>(イ) 遅刻の回数 昨年度比25%減</p> <p>(2)日々の授業や学校行事等、教育実践全般を通じて継続的にモラル教育を実践します。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(ア) 欠席日数の減少</p> <p>(イ) 校則違反等による特別指導件数の減少(10件以下に減)</p> <p>(3)工業高校生としての連帯感を高め、いじめのない良好な人間関係の構築に努めます。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(ア) 新入生研修で「ソーシャルメディアの利用について」の講話を実施(4月)</p> <p>(イ) 各科や各学年を通じた指導</p> <p>(ウ) 部活動での人間関係の育成</p> <p>(エ) 生徒個別面談(年間2回)や学校生活等に関するアンケート(各学期)の実施</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>いじめの未然防止、早期の把握・解消 いじめの解消率100%</p> <p>(4)学校の様子を積極的に保護者に発信し、意思疎通を図り、生徒指導の意義や目的への理解を高めます。(保護者や学校関係者以外の意見、HR活動や個別懇談の状況把握等の実施)</p> <p><b>【活動指標】</b> (ア) 保護者会やPTA諸会合での説明</p>	<p>・輪番で登校指導、校内巡視を実施した。</p> <p>・駅前や市内巡視は生徒指導部で曜日限定して実施した。</p> <p>・入室許可証を取りに来る生徒は昨年比減少した(27.8%減)</p> <p>・身だしなみ講座は1年生対象にオリエンテーション時に実施した。</p> <p><b>【頭髪服装指導について】</b></p> <p>1)毎月実施した。(コロナ禍の影響で9月は実施できなかった)</p> <p>2)頭髪服装指導の延べ人数は、学年担任団や科の取り組み(事前指導)により減少した。</p> <p>3)学年別では上級生になるにつれ増加傾向にある。</p> <p>・挨拶については、来客の方から高い評価を得ている。</p> <p><b>【遅刻・入室について】</b></p> <p>・遅刻は194件→140件(27.8%減)</p> <p>・入室は697件→479件(31.3%減)両項目共に減少傾向にある。</p> <p>・6,11,2月の遅刻防止月間を平成26年より導入し、成果が出ているので今後も続けたい。</p> <p><b>【特別指導について】</b></p> <p>・特別指導件数5件と目標を達成している。</p> <p>・SNSによるトラブル・迷惑行為が多くを占めている。SNS利用の学習会や全校集会等で生徒の規範意識を高める必要がある。</p> <p><b>【いじめについて】</b></p> <p>・いじめ防止強化月間では、宇治山田駅での啓発活動を実施した。</p> <p>・生徒個別面談、学校生活などに関するアンケートを実施し、生徒の状</p>	

	<p>(イ) 学年懇談会での話し合い</p> <p>(ウ) 生徒個別面談を年2回実施、学校生活等に関するアンケートを各学期に実施</p> <p>【成果指標】 保護者が学校の様子をよく理解している。 保護者が学校に対し気軽に意見を言える。</p>	<p>況把握をすることができた。</p> <p>・定期的に「いじめ防止委員会」を開催し、いじめの認知や情報共有に努めた。</p>																															
<p>進路指導</p>	<p>希望の進路に内定できてこそ、活気ある工業高校が実現できます。基礎学力向上に向けた取り組みの充実と、面接が「自分の人となりの魅力を伝える場」となるよう表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組みます。</p> <p>(1)キャリア教育を推進して、生徒・保護者の希望に合った進路実現をめざします。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア) 新型コロナウイルスの感染防止の観点から、企業訪問を自粛する。その代わり、過去5年の卒業生の就職先を中心に約200社へ挨拶状を送付し、今年度の求人をお願いと、卒業生の現状確認を行う。その後は電話やメールなどで各社とコミュニケーションを取る。</p> <p>(イ) キャリア教育の推進による生徒の主体的な進路選択・進路決定</p> <p>(ウ) 全職員及び外部講師による「面接指導」の実施</p> <p>(エ) インターンシップ(1・2年生)の実施 例年夏期休業中に行っているが、今年度は協力企業と連絡を取り合い、実施する時期を検討する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(ア) 求人企業数・求人数の大幅減を防ぐ</p> <p>(イ) 一次合格率、就職90%以上・進学 95%</p> <p>(ウ) インターンシップの実施</p>	<p>●マナトレやSPI対策ワークを使用し学習習慣の確立と定着を、確認テストを実施することで図り基礎力診断テストを実施して基礎学力の定着度を確認した。</p> <p>●1・2学年はマナトレをやめ、基礎学力向上・SPI対策のための授業が受けられるスタディサプリを導入した。</p> <p>●今年度の求人状況</p> <table border="1" data-bbox="1077 716 1436 1108"> <tr> <td>県内</td> <td>368社</td> <td>613名</td> </tr> <tr> <td>県内全域</td> <td>49社</td> <td>72名</td> </tr> <tr> <td>北勢・伊賀</td> <td>91社</td> <td>144名</td> </tr> <tr> <td>中勢</td> <td>113社</td> <td>199名</td> </tr> <tr> <td>南勢</td> <td>115社</td> <td>198名</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>164社</td> <td>265名</td> </tr> <tr> <td>今年度合計</td> <td>532社</td> <td>878名</td> </tr> <tr> <td>求人倍率</td> <td>7.5倍</td> <td></td> </tr> <tr> <td>昨年度合計</td> <td>570社</td> <td>926名</td> </tr> <tr> <td>求人倍率</td> <td>7.98倍</td> <td></td> </tr> </table> <p>1割強の減少であったが、十分な数の求人があった。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)6月初旬、215社に離職状況や今年度の求人に対する各社の考えを確認するため挨拶状を送付したが、139社しか返信がなく、コロナによる各社の求人計画に遅れが出ていることがわかり、今年度も厳しい状態が続くことが予想できた。</p> <p>(イ)ガイダンスなど外部講師を招くものは、すべて計画段階で中止した。その中でも、各担任をはじめ各教員が、それを補う指導を授業等に織り交ぜ、主体的な進路選択・決定に結びつけることができた。</p> <p>(ウ)緊急事態宣言により、9月がオンライン授業となる中、許される条件下で面接指導を行なったが、生徒には練習不足による不安を残した。</p> <p>(エ)インターンシップの受入れ可能な企業は多くあったが、夏季休業中以外の実施は難しい。</p>	県内	368社	613名	県内全域	49社	72名	北勢・伊賀	91社	144名	中勢	113社	199名	南勢	115社	198名	県外	164社	265名	今年度合計	532社	878名	求人倍率	7.5倍		昨年度合計	570社	926名	求人倍率	7.98倍		
県内	368社	613名																															
県内全域	49社	72名																															
北勢・伊賀	91社	144名																															
中勢	113社	199名																															
南勢	115社	198名																															
県外	164社	265名																															
今年度合計	532社	878名																															
求人倍率	7.5倍																																
昨年度合計	570社	926名																															
求人倍率	7.98倍																																

		<p><b>【成果指標】</b></p> <p>●学校幹旋の就職内定率は本年度も100%目標を達成した。 (一次合格率 93%)</p> <p>●進学については34名が合格した。(一次合格率 95%)</p> <p>四年制大学 11名 短期大学 2名 高専編入 1名 専門学校 19名 各種学校 1名 (2名が一般選抜に挑戦。)</p> <p>●インターンシップはコロナの感染状況や学校の授業日数等の関係から、今年度も中止とした。</p>
--	--	---

**改善課題**

コロナ禍の就職試験対策やオンライン会社見学などについて教員、生徒ともにスキルを向上させる必要がある。

**【別表】**

資格取得 合格者数の 目標値	資格、検定	機械科	電気科	建築科
	危険物乙種4類	全学年80人/22人	40人/20人	
	ガス溶接技能講習	2年生76人/75人		
	基礎製図検定	2年生76人/48人		
	機械製図検定	3年生50人/44人		
	技能検定(機械保全)3級	3年生6人/5人		
	技能検定(機械検査)3級	3年生10人/11人		
	技能検定(普通旋盤)3級	3年生5人/4人		
	小規模ボイラー講習	50人/43人		
	ボイラー技士2級	5人/0人(4人受験)		
	電気工事士2種	2人/2人	40人/24人	
	電気工事士1種		10人/5人	
	電気主任技術者3種		1人/0人	
	第二級陸上特殊無線技士	2人/3人	10人/31人	
	第二級海上特殊無線技士	2人/2人	10人/30人	
	技能検定(シーケンス制御)3級		10人/受験中	
	技能検定(電子機器組立て)3級		13人/13人	
	福祉住環境コーディネータ3級			5人/0人
	2級建築施工管理技術検定試験			5人/13人
	カラーコーディネータ3級			5人/1人
建築CAD検定4級			35人/40人	
建築CAD検定3級			35人/33人	
建設業経理事務士4級			20人/38人	
技能検定(建築大工)3級			5人/結果待ち	
レタリング検定3、4級			35人/40人	

標記：目標/結果

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p>(1) 教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努めます。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時退校日を月1日実施</li> <li>・ 部活動休養日を週1回設定</li> <li>・ 放課後の会議の時間 60 分以内</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b>( ( )内は令和2年度の実績 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上限時間月45時間超の延べ人数0人 (30人)</li> <li>・ 上限時間年360時間超の延べ人数0人 (3人)</li> <li>・ 時間外労働を月2時間削減(11.0時間/月)</li> <li>・ 定時退校できなかった教職員数延べ45人以内(64人)</li> <li>・ 予定通り休養日を設定した部活動の割合100%(98.8%)</li> <li>・ 60分以内に終了した放課後の会議の割合100%(92.3%)</li> <li>・ 休暇取得を年0.5日増加(19.2日/年)</li> </ul> <p>(2) 体罰や不適切な指導のない状態を守り続け、生徒がより安心、安全に過ごせる学校を目指します。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンプライアンス研修を年2回実施</li> <li>・ ミニコンプライアンス研修を月1回実施</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>職員一人ひとりのコンプライアンス意識が高まっている。</p> <p>(3) ICT教材を活用した授業研究等を通じて、各教科のICT教育のスキルアップを目指します。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT研修を年3回実施</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>各教科におけるICT教材を活用した授業の実施と、ICT教材を活用した授業改善を目指します。</p>	<p>(1) 新たに会議室(人権室)を整備し、対話スペースを確保した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時退校日、部活動休養日、放課後の会議時間の設定を活動指標通りとした。</li> <li>・ 月45時間超 38人(2月末)</li> <li>・ 年360時間超 6人(2月末)</li> <li>・ 時間外労働 月13.1h(10.9h)(2月末)</li> <li>・ 定時退校できなかった職員は、64人。</li> <li>・ 休養日を設定した部活動は、昨年同程度の98%</li> <li>・ 60分以内に終了した放課後の会議について、93%。</li> <li>・ 休暇取得についても、学校閉校日を昨年度1日から今年度4日に増やして取得率増加に繋げた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンプライアンス研修を3回実施した。ミニコンプライアンス研修として、デスクネットや新聞を活用した不祥事の情報共有を図り、職員のコンプライアンス意識を高めた。</li> <li>・ 9月のオンライン学習期間に研修を集中的に実施、教員同士が学びあう機会を設けた。</li> <li>・ 現在は、およそ半数の授業でICT機器を活用したものとなっている。</li> </ul>	

<p>地域との連携</p>	<p>南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深めます。</p> <p>(1)地域関係者との連携強化及び学校の情報発信力の強化を図ります。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(ア) 小学校への出前授業の実施</p> <p>(イ) 工業高校生フェアの開催準備(R2年度は休止のため R3 年度に向けての検討)</p> <p>(ウ) 中学校教員等対象説明会の開催</p> <p>(エ) 「ものづくりの小径」の整備</p> <p>(オ) 報道機関への資料提供やホームページによる積極的な情報提供</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>地域関係者との連携強化が進んでいる。</p> <p>(2)地元企業との連携強化に向けて、双方向からの情報発信・相互理解を深めるための行事を実施します。</p> <p><b>【活動指標】</b> 地元企業の高校内企業説明会の実施</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>企業、生徒双方の満足度90%以上(満足度アンケートより)</p>	<p>(1) 度会町との連携を始めた。</p> <p>コロナ感染症のため、出前授業、中学校教員説明会は、中止。</p> <p>ものづくりの小径は、整備を進めた。報道機関への資料提供やホームページによる情報提供は、生徒の取組、企業連携について取り上げた。</p> <p>地元企業(酒蔵、精肉店、喫茶店)などと連携を深めている。</p> <p>1年生、2年生を対象とした企業説明会を実施した。</p>	
---------------	---	--	--

### 改善課題

コロナウイルス感染症対応や ICT 機器の導入、評価方法等、新たな業務が増える一方、今までの業務について、一度見直す機会が必要と感じる。また、生徒指導について、社会の変化を捉えて学校も変化する時代がきている。

生徒や保護者から、四年生大学進学ニーズが一定程度あり、工業高校への志願者が減っている原因の一つと考える。本校として、地域連携とともに、四年生大学への進学対策に取り組む。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、社会人として学び続ける力や精神力、基本となる工業の知識、技能、資格を身につけることが必要。</li> <li>・ICT 教育に努めるとともに、自立して生きる力を育成するために、今後も地域連携、ものづくり教育を推進していくことが大切。</li> <li>・教職員の働き方については、厳しい状況であるため、今後も仕事内容の精選や部活動についても見直す機会が必要。</li> </ul>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>R 4 年度新入生より、全員パソコンを購入させるため、パソコンを活用した授業研究を進める必要がある。また、学習評価方法については、研究を進め、わかりやすい評価を検討する体制をつくる。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>働き方改革については、啓発に努めるとともに、業務の見直しや外部人材の活用等を進めていく必要がある。コンプライアンス意識や、人権感覚を高めるため、打合せ会や職員会議、研修等を通じて継続的に意識を深めていくことが必要。</p>